

平成 18 年 4 月 26 日

各 位

会 社 名 株式会社九州親和ホールディングス
代 表 者 名 代表取締役社長 小田 信彦

平成 18 年 3 月期業績予想の修正に関するお知らせ

平成 17 年 11 月 25 日に公表いたしました平成 18 年 3 月期の当社および当社の子会社である株式会社親和銀行の業績予想の修正を、下記のとおりお知らせいたします。

記

1 . 平成 18 年 3 月期業績予想 (平成 17 年 4 月 1 日 ~ 平成 18 年 3 月 31 日)

【株式会社九州親和ホールディングス】

(単位：億円)

	連 結			単 体		
	経常収益	経常利益	当期純利益	営業収益	経常利益	当期純利益
前回公表予想(A)	735	72	32	21	15	14
今回修正予想(B)	862	118	51	21	15	14
増減額(B-A)	127	46	19	-	-	-
増減率(%)	17.27	63.88	59.37	-	-	-
平成 17 年 3 月期実績	720	199	210	4	1	1

【株式会社親和銀行】

(単位：億円)

	連 結			単 体		
	経常収益	経常利益	当期純利益	経常収益	経常利益	当期純利益
前回公表予想(A)	733	71	32	724	70	31
今回修正予想(B)	860	117	50	850	117	50
増減額(B-A)	127	46	18	126	47	19
増減率(%)	17.32	64.78	56.25	17.40	67.14	61.29
平成 17 年 3 月期実績	738	179	207	731	178	205

2. 修正の理由

(1) 親和銀行(単体)

銀行の基礎的収益力であるコア業務純益(住宅ローン証券化による譲渡益除くベース)は、216億円と引き続き年間200億円を超える水準を確保する見込みです。

不良債権処理については、「地域密着型金融の機能強化の推進に関するアクションプログラム」の第一の柱である「事業再生・中小企業金融の円滑化」の主旨に則り、企業再生、地域再生に積極的に取り組んだことで与信費用は349億円となる見込みです。

また、住宅ローン債権の証券化による譲渡益や有価証券の含み益の実現もあり、経常利益は前回予想比47億円増加の117億円、当期純利益は前回予想比19億円増加の50億円となる見込みです。

【親和銀行(単体)の平成18年3月期業績予想】

(単位:億円)

	前回公表予想 (A)	今回修正予想 (B)	増減額 (B)-(A)	17年3月期 実績
業務粗利益	599	649	50	618
経費	308	300	8	333
業務純益(一般貸倒引当金繰入前)	291	349	58	285
(除く国債等債券損益、住宅ローン証券化による譲渡益)	221	216	5	222
一般貸倒引当金繰入額	6	32	26	57
業務純益	284	316	32	228
臨時損益	214	199	15	406
うち不良債権処理額	250	316	66	404
経常利益	70	117	47	178
特別損益	15	5	10	4
当期純利益	31	50	19	205

(2) 当社(連結)および親和銀行(連結)

主に親和銀行(単体)の業績予想の修正によるものです。

(3) 当社(単体)

業績予想に修正ございません。

3. 平成19年3月期業績予想

平成19年3月期の業績予想につきましては、決算発表時(5月下旬)にお知らせいたします。

以上

本件に関するお問い合わせ先
総合企画グループ 松井
TEL 0956-26-4105